

# 総会

## 地域の担い手育成 テーマにフォーラム

トップランナー  
倶楽部幹事会



建設トップランナー倶楽部幹事会(米田雅子代表幹事)は7日、都内で総会を

開き、2020年度の事業計画を了承し、建設トップランナーフォーラムを6月26日、「地域の担い手育成を育めるか」をテーマに開催することにした。

総会の冒頭、あいさつに立った米田代表幹事(写真)は、建設業を含めあらゆる産業が直面している人手不足の背景にある人口減少の問題に言及。今後100年で半減する可能性があるとし、「明治期以降の人口の激増と現代の激減は、日本の歴史上、類を見ない変化」と強調した。そして人口減少が日本の産業構造を変えうる可能性を

指摘。「農業と建設業の複関して「限りある人材を業で地域を支えるニーズの種を超えてシェアする。農拡大」など、「業種を超えて、地域で仕事を平準化」建設業の多能工化や林業と建設業の多能工化や林業で地域を支えるニーズの種を超えてシェアする。農拡大」など、「業種を超えて、地域で仕事を平準化」建設業の多能工化や林業と建設業の多能工化や林業など、倶楽部が推進してきた複業が先駆的意義を持つ」と強調した。

### 建設トップランナー倶楽部幹事会

#### 職 種 CCUS 多能工求める声も

#### 担い手育成テーマに研修会

建設業の分野進出や複業化などに取り組む地域建設業の経営者らで組織する建設トップランナー倶楽部幹事会(米田雅子代表幹事)は7日、地域の担い手育成をテーマ



を入れるべきだとする意見や、働き方改革の課題として民間事業者の理解を指摘する声が上がった。

研修会ではまず、国土交通省・建設産業局労働資材対策室の藤本真也企画専門官が、CCUSや働き方改革など「建設業

の担い手確保・育成」について、厚生労働省の沢井俊介人材開発政策係長が、公的職業訓練や労働者のキャリア形成支援など人材開発の取り組みなどをテーマにそれぞれ講演した。

意見交換で幹事会のメンバーからは、CCUSに関して、技能者の仕事の実態に合わせ「多能工」の職種を設置すべき▽短期間で終わる現場もあるため、カードリーダーの機能をスマートフォンで代替できないかなどといった意見が出た。

また、週休2日の導入など働き方改革を巡って幹事会のメンバーから

は、民間事業者の理解をはじめ、日給月給の技能者の所得の確保などが課題に上がった。

時間外労働の上限規制に関しては、建設業に対して5年の猶予期間について、「それだけ世の中の動きが遅れ、建設業は取り残される」として、前倒しの対応を呼び掛ける声も出た。